

④ 難病患者リハビリテーション料の見直し

第1 基本的な考え方

難病患者リハビリテーションにおける各職種の役割等を踏まえ、難病患者リハビリテーション料の算定要件及び施設基準を見直す。

第2 具体的な内容

難病患者リハビリテーション料の施設基準に言語聴覚士を追加する。

現 行	改定案
<p>【難病患者リハビリテーション料】 難病患者リハビリテーション料 640点</p> <p>[施設基準]</p> <p>ロ 当該保険医療機関内に難病患者リハビリテーションを担当する専従の看護師、理学療法士又は作業療法士が適切に配置されていること。</p> <p>ハ 患者数は、看護師、理学療法士又は作業療法士を含む従事者の数に対し適切なものであること。</p> <p>(2) 専従する2名以上の従事者（理学療法士又は作業療法士が1名以上であり、かつ、看護師が1名以上）が勤務していること。ただし、ADL維持向上等体制加算、回復期リハビリテーション病棟入院料及び地域包括ケア病棟入院料を算定する病棟並びに地域包括ケア入院医療管理料を算定する病室を有する病棟における常勤理学療法士又は常勤作業療法士との兼任ではないこと。なお、あらかじめ難病患者リハビリテーションを行</p>	<p>【難病患者リハビリテーション料】 難病患者リハビリテーション料 640点</p> <p>[施設基準]</p> <p>ロ 当該保険医療機関内に難病患者リハビリテーションを担当する専従の看護師、理学療法士、<u>作業療法士又は言語聴覚士</u>が適切に配置されていること。</p> <p>ハ 患者数は、看護師、理学療法士、<u>作業療法士又は言語聴覚士</u>を含む従事者の数に対し適切なものであること。</p> <p>(2) 専従する2名以上の従事者（理学療法士、<u>作業療法士又は言語聴覚士</u>が1名以上であり、かつ、看護師が1名以上）が勤務していること。ただし、ADL維持向上等体制加算、回復期リハビリテーション病棟入院料及び地域包括ケア病棟入院料を算定する病棟並びに地域包括ケア入院医療管理料を算定する病室を有する病棟における常勤理学療法士、<u>常勤作業療法士又は常勤言語聴覚士</u>との兼任ではないこと。なお、あらかじめ難病</p>

う日を決めている場合、第7部リハビリテーション第1節の各項目のうち、施設基準において、専従の理学療法士、作業療法士又は看護師の勤務を要するものであって、あらかじめ当該難病患者リハビリテーションを行う日には実施しないこととしているものについては兼任できる。また、当該保険医療機関において難病患者リハビリテーションが行われる日・時間が当該保険医療機関の定める所定労働時間に満たない場合には、当該リハビリテーションの実施時間以外に他の業務に従事することは差し支えない。

2 届出に関する事項

(2) 当該治療に従事する医師、理学療法士、作業療法士その他の従事者の氏名、勤務の態様（常勤・非常勤、専従・非専従、専任・非専任の別）等を別添2の様式44の2を用いて提出すること。

患者リハビリテーションを行う日を決めている場合、第7部リハビリテーション第1節の各項目のうち、施設基準において、専従の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士又は看護師の勤務を要するものであって、あらかじめ当該難病患者リハビリテーションを行う日には実施しないこととしているものについては兼任できる。また、当該保険医療機関において難病患者リハビリテーションが行われる日・時間が当該保険医療機関の定める所定労働時間に満たない場合には、当該リハビリテーションの実施時間以外に他の業務に従事することは差し支えない。

2 届出に関する事項

(2) 当該治療に従事する医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士その他の従事者の氏名、勤務の態様（常勤・非常勤、専従・非専従、専任・非専任の別）等を別添2の様式44の2を用いて提出すること。